

2月のさろんテーマ

「暮らしを紡ぐ『和』」

丸山 薫（「心葉」主宰）



丸山さんはステージ、イベントの企画制作・広報・マネジメント業務の傍ら、木戸華實師に日本文化の美意識を学び、「心葉（こころば）」を主宰。自宅を開放し楽しみ遊びながら“日本の美しいことから”を学ぶ「大人のままと」教室を開催。今夜のさろんは「和」のお話です。

■心葉は和のおもてなし

私は4歳から日本舞踊を習い、「和」に興味をもっていました。今は90歳をこえていらっしゃる木戸華實先生の華寿美会に入り、日本文化の美意識、歳時記、仏教美術、有職故実などの和の心について学んできました。暮らしを紡ぐ和というタイトルで新聞に書かせて頂いたり、NHK・BSデータ放送「七十二候/今日の旬」を担当させて頂いたりしています。

自宅で大人のままとと名付け、「心葉」の会をしています。「心葉」は平安時代のことばです。大切な方に贈る品に、その季節の花や小枝を添えていた。例えば今ですと梅の小枝ですね。この「おもてなし」に通じる「心葉」の実践は、利便性優先のライフスタイルでは忘れがちな何かに気づかせてくれる。ですから、「心葉」教室では暮らしの中で和のころをどのように活かしていこうか、おしゃべりしながら、みんなで考えるスローライフ勉強会というか、お楽しみ会なのです。

■二十四節気・七十二候

1年を半月ごとの変化で24に分けた二十四節気はみなさんご存知だと思います。立春、雨水、啓蟄、春分…。天気予報で「暦の上では今日は立春です」とか必ず、言いますね。これをさらに5日ずつ72に分けた季節を表す方式が七十二候です。たとえば今日は、魚上氷（うおこうりをいずる）で、割れた氷の間から魚が飛び出るといふ候。いかにも昔の人が自然の変化を身近に味わいながら生きてきたかがわかります。今日が七十二候の何に当たるかについて知っているのと、より敏感に季節を感じる事が

できます。今はネットの無料アプリ（「くらしの暦」など）があるので、ダウンロードしてはいかがでしょうか。自動的に更新され、新しい候をしらせてくれます。

■お雛様の室礼をつくりましょう

ままと教室でどんなことをしているのかというと、ひとつは室礼（しつらい）。室礼という言葉があつて、昔から日本人は玄関などに季節を飾ってきた。庭に落ちていた紅葉したモミジを飾るのも室礼です。訪れる人や家族のために、堅苦しくなく季節を取り入れて飾るおもてなしです。



狂言肩衣をあしらった「秋」の室礼

先生から学んだのはその季節に因んだものを布や紙で作って飾ったり、贈ったりする方法です。例えば、今なら椿とか桃とか、秋なら月とうさぎなどを。これを工夫しながら作っています。今日は和紙を用意しましたので、みなさんに

実践してもらいましょう。

もう少しすると雛祭りですから、これでお雛様をつくってみましょう。白い紙で顔と胴体をつくり、きれいな模様の帯を巻き、顔を描きます。見本がありますので、これにならって、また、自分なりのオリジナリティも工夫して作ってみましょう。

作った人の個性が出るから、面白いですね。

（2016年2月16日開催）



参加者がつくったお雛様の室礼。ひとりひとりの個性やセンスがまします。